

フィリピン大学の学長就任式



フィリピン大学のN. C. ヘルヴァシオ歯学部長が、1992年（平成4年）4月に本学を訪問した。新任の彼女は毅然としたDeanであったが、飾らない気さくな人柄にすぐに打ちとけ意気投合した。

帰国3ヵ月足らず、Dr. ヘルヴァシオから、姉妹校の提携を求める文書が届いた。その熱いプロポーズをうけて、私たちは同意書を郵送で交換し、11月1日付で姉妹校となった。彼女は1998年（平成10年）には、半年間、客員教授として新潟に滞在した。ヘルヴァシオは会うたびに、「日本人にはdiscipline規律がある」と三嘆した。

私と小倉英夫教授は、2000年（平成12年）4月に初めてマニラを訪れ、フィリピン大学の学長就任式に列席した。同じく、ヘルヴァシオが同副学長に就任するので、お祝いに駆けつけたのである。24日、就任式は国際コンベンションセンターにおいて、同大学卒業式にあわせて挙行された。フィリピン大学は同国最大最高の国立大学で、私たちは盛大な華やかな就任式に圧倒された。

翌々日、マニラ郊外のヘルヴァシオ邸に招待された。当時まだ治安が悪かったが、広い邸内には50人をこえる家族親類が集まっていた。毎月1回かならず一族が集うとのことで、今回は私たちの訪問に合わせたらしい。開放された邸内を子供たちが駆けまわり、食事をつくるご夫人方のお喋りが絶えない。私たちは、家族親類を大切にする彼らの絆の深さに感動した。

昼食を囲むと、ヘルヴァシオの長兄の老翁が、タドタドしい日本語まじりによもやま話を語る。日本の統治時代に日本語教育を受けたというが、彼は懐かしそうに幼年時代の思い出に花を咲かせ、私たちを心から歓待してくれた。私は、その温容に自分の伯父さんと語り合っているような錯覚を覚えた。

現在、本学大学院（新潟）をでたDr. V. O. メディーナⅢが、同歯学部長を務める。昨年10月にフィリピンを襲った巨大台風の災禍に際し、本学では彼宛に心ばかりの義援金を送った。

（写真：初めて来学したDr. ヘルヴァシオ）